第1章　計画の概要

1-1. はじめに

伊豆の国市は、天城連山に源を有する水量豊富な狩野川が市内中心部を流れ、その狩野川に沿うように市街地が形成され、湯量豊富な温泉資源に恵まれた温泉街や肥沃な土壌からなる田園など豊かな自然と調和した美しい景観に恵まれたまちです。

近年、狩野川の水辺空間は健康志向の高まりからウォーキング、ランニングやサイクリングなど多様な形態で利用され、利用者も増加傾向にあり、特に東京 2020 オリンピック・パラリンピックの自転車競技がベロドロームで開催されることから、サイクリングを目的に来訪する方も多く見られます。また、狩野川の神島地区に隣接する「道の駅伊豆のへそ」は、伊豆の国市名産のいちごスイーツや静岡・伊豆の特産野菜の販売、世界的自転車メーカーの展示・試乗が楽しめる複合施設として高い集客力を誇っています。

このように、狩野川の河川空間利用はポテンシャルがあるとともに、ジオポイントである「城山」などの美しい景観を楽しめることから、狩野川の水辺空間の魅力や利便性をさらに高めることで、市民や来訪者が憩い、集える拠点としての活用が可能と考えられます。

一方、伊豆の国市は、原始・古代から近現代にいたる歴史文化資源が重層的に存在するなど、観光に関するポテンシャルはあるものの観光交流人口は横ばいであり、来訪者が市内に長くとどまる滞在・周遊観光へとは波及していないという課題を抱えています。また、地域の人々と狩野川との触れあいの機会が希薄化していることも事実です。

このような背景のもと、地域住民代表者や漁業協同組合、民間企業、行政機関等で構成する「伊豆の国市かわまちづくり協議会」を設立し、狩野川の水辺空間を活かした“かわまちづくり”を行うことで、「地域と川との触れあいの場の創出」「観光交流人口の増加」「滞在・周遊型観光への転換」「サイクルツーリズムの確立」を図り、伊豆の国市におけるまちづくりの課題解決につなげていくための水辺空間整備や利活用・維持管理について協議を重ねてきました。

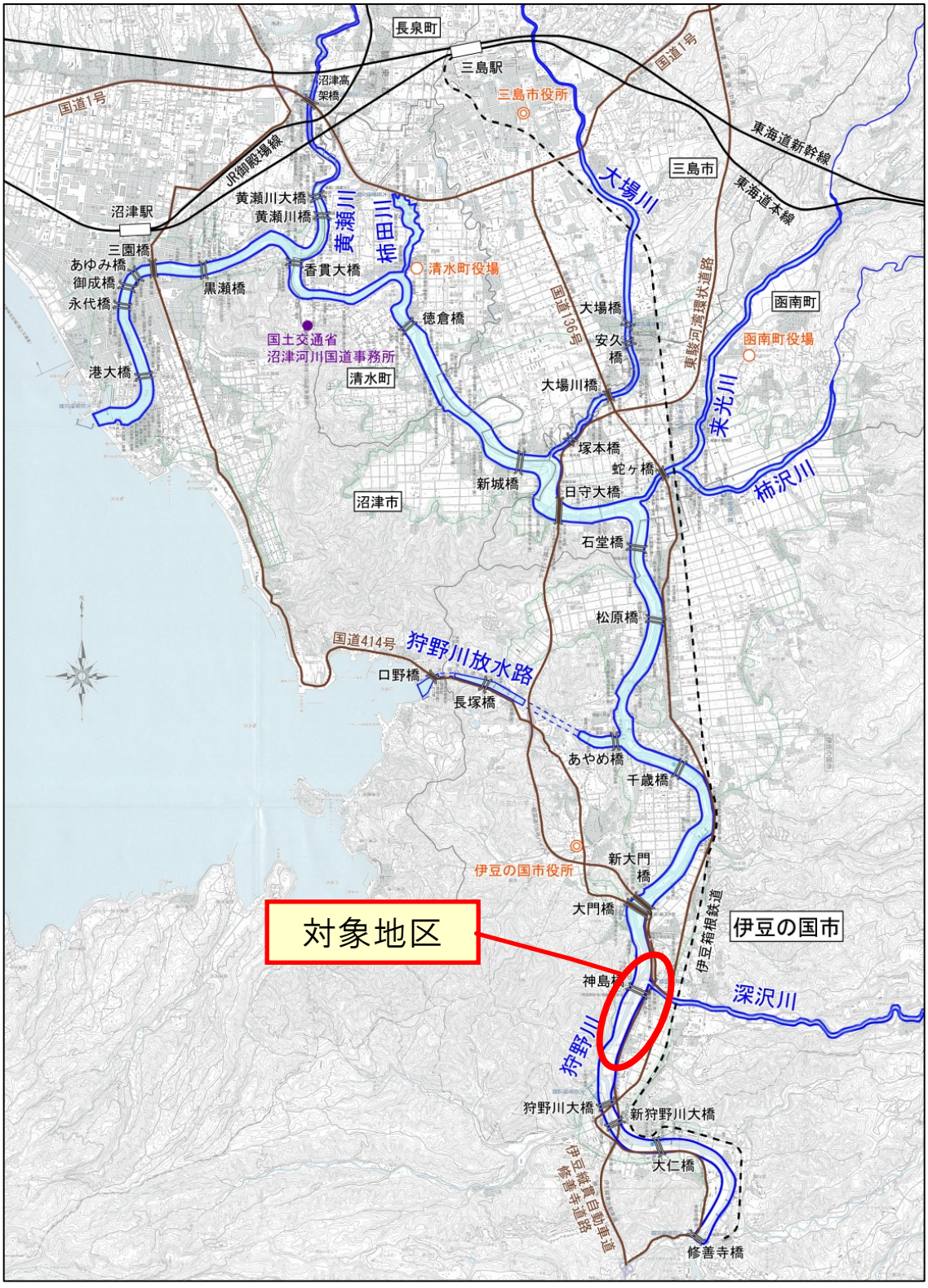
本計画は、これまで協議してきた「伊豆の国市かわまちづくり」の整備内容や利活用計画、維持管理計画を「伊豆の国市かわまちづくり計画」としてとりまとめたものです。

今後、本計画を実現することで、市民や来訪者に親しまれる河川利用拠点及びネットワークが創出され、“かわ”と“まち”の新たな賑わいが生まれることを期待します。

令和元年１２月

伊豆の国市かわまちづくり協議会

1-2. 対象地区

「伊豆の国市かわまちづくり」の対象地区は、市内を流れる狩野川の『神島地区』と『中島地区』及びその周辺とします。

対象地区の位置